

網走水試の山本です。今回は6月に実施した網走湖のシジミと、サロマ湖のホッコイエビの資源調査について、ご紹介します。

1. 網走湖のシジミ資源調査

網走湖のシジミ（ヤマトシジミ）の生産量は、道内生産の8割以上を占める重要な資源です。水試では毎年6月、西網走漁協など関係機関の協力のもとで、湖内のシジミの資源量や個体数などの調査を行っています。

資源量調査は、湖内約140地点で漁具のジョレンを使用しシジミを採取して生貝を選別し、そのサンプルの重量や殻長を測定することで、資源量と個体数を推定するものです。

調査には多くの漁業者の協力があり、結果は資源状況の説明資料として提供し、自主的に取り決める漁獲量の設定などに利用されています。

また、分布調査は、湖内約50地点で採泥器を使ってシジミを採取し、小型貝も含めすべての個体数を計測し、資源の新規加入などを推定します。

網走湖のシジミ資源は2015年をピークに減少していますが、今年の調査では、昨年の産卵による新規加入で2mm前後の個体が多く確認されました。この個体が漁獲サイズになるまで5、6年かかりますが、関係者の努力が実を結び、資源が回復することを期待しています。

【ジョレンによるシジミの採取】



【例年の生貝の選別作業（左）と殻長の測定（右）】



2. サロマ湖のホッコイエビ資源調査

7月7日、サロマ湖沿岸の湧別、佐呂間及び常呂漁協では今年のホッコイエビ漁業の禁漁を決めました。4年連続の禁漁であり、調査結果を踏まえて英断をされたことに、頭が下がる思いです。

水試では、漁期前の6月、3漁協の試験調査で捕獲されたホッコイエビを測定して資源評価を行い、結果を資源状況の説明資料として提供しています。

今年の調査では、漁獲対象となる体長9cm以上の大型個体が少ない一方で、小型個体の増加が確認されました。水試では地域の皆さんとともに、サロマ湖のホッコイエビ資源の回復が順調に進み、操業の再開につながることを待ち望んでいます。

【ホッコイエビの測定】



（網走水試 山本 和人）